

平成29年3月1日

久慈市議会

議長 中平 浩志 殿

平成28年度

久慈市議会「新政会」視察研修報告書

新政会

会 長 澤里 富雄

幹事長 上山 昭彦

泉川 博明

山田 光

岩城 元

「新政会」会派視察研修を実施したので、次のとおり報告する。

1、 視察期間 ・平成29年2月9日（木）～平成29年2月11日（土）

2、 視察先 ・新潟県糸魚川市役所
・新潟県糸魚川市フォッサマグナミュージアム
・新潟県上越市議会

3、 研修議員 ・澤里 富雄
・泉川 博明
・上山 昭彦
・山田 光
・岩城 元

4、 研修事項

（1）新潟県糸魚川市

- ① 糸魚川市街地での大規模火災の概要について
- ② 糸魚川ジオパークの事業概要と観光振興について
- ③ 大規模火災時のボランティア活動について

（2）新潟県上越市議会

- ① 議会改革について
 - ◎ 議員発議について
 - ◎ 議会だよりの紙面作りについて
 - ◎ 委員会のインターネット中継について

視察研修内容 (1) - ①

日 時	平成29年2月9日(木) 午後1時30分～午後3時
視 察 地	新潟県糸魚川市役所
視察先住所	新潟県糸魚川市一の宮1丁目2-5
応 対	・糸魚川市議会議長 倉又稔 様 ・糸魚川市議会事務局 局長 小竹和雄 様 ・糸魚川市議会事務局 議会係主査 石崎健一 様
説 明 者	・産業部交流観光課長 渡辺成剛 様 ・ジオパーク推進係長 山内俊洋 様
視 察 目 的	糸魚川市街地での大規模火災の概要について

概要 (糸魚川大規模火災について)



- 糸魚川市議会議長 倉又稔様より歓迎のご挨拶をいただく



- 歓迎の看板にもジオパークの文字が

- ご対応いただいた糸魚川市の皆様



- お礼のあいさつを行う
新政会会長・澤里富雄



- 渡辺課長より、火災で焼失した市街地の写真を参照しながら、大規模火災の説明を受ける

- 資料を参照しながら、研修に臨む新政会一同



- 火災後の航空写真で詳しい状況の説明を受ける

- 糸魚川市役所前にて研修参加者



提供いただいた資料（糸魚川市駅北大火記録より抜粋）



- 火災当日の消火活動
周辺も延焼しているが
手の施しようがないよ
うだ

- 赤線枠が、下部出火場
所から、上部海側へ焼失
した市街地区域
扇状に広がっている



- 瞬く間に、焼け野原
となった商店街



- 建物の構造もあり、
火災を免れた住宅が
中央に見える



所感

大火災現場と今後の対応と課題等について、関係者の説明をパネル等使用し詳細に説明を受けた。

○ 質問要旨と説明

【質問】 なぜ海の方にだけ炎が進んで行ったのか。

【説明】 出火元が北側に位置し、日本海側へ強風が吹き飛び火したことが要因であり、糸魚川独特の地形に起因する。

【質問】 木造の建物が1棟残っているがその理由はなにか。

【説明】 本当にびっくりしている。考えられることは、軒下部分は他の構造物と違って短い構造であったことから建物の軒下から炎が入らなかった。また、建物がしっかり密閉されていたことが考えられる。

【質問】 火元になった火災原因は何か。

【説明】 出火原因は、なべの空焚きで、コンロの火を消し忘れて留守であった。

【質問】 ボランティアの全国からの受け入れはどうなっているか。

【説明】 ボランティア活動については、鎮火当初から多数の方々に協力いただいたが、視察時期は機械中心復旧作業中となっており、手作業での作業は困難であり、ご理解願いたいことの話があった。

【質問】 建物の現況復旧のめどが立っているか。又、その費用はどうなるか等火災にあった方々の生活実態は現在どうなっているか。

【説明】 火災被災者の現状と心境については、国の激甚災害認定を受けたことと火災保険への加入者がほとんどであったことから、幾分安堵している。家財道具等以外の住居に関する確保は十分できると認識している。

【質問】 火災範囲が道路を囲むようにまとまっているがそこで済んだ理由は。

【説明】 火災現場は道路沿に四方面しており消火活動が延焼しないような消火活動に努めたことが、他の区画に延焼しなかったものと考えている。甲子園球場1個分が消失した。

【質問】 過去何回か大火災が発生しているが、何が原因とみているか。

【説明】 過去の大火災が多い理由は、地理的条件と歴史のある街中形成が原因し

ていると思っている。市街地から少し出ると南北アルプス等高い山がある地形で谷間に位置していることから山側から吹き下ろす風が原因である。過去三回は昭和からで、それ以前は10回起きている。

【質問】 消火のための水の確保が難しかったと聞くが現実そうであったのか。

【説明】 水が足りなかったとの噂があったが、海水を利用してしっかり消火活動していた。死者数0人であり、昼であったことが幸いしたとしている。

【質問】 電光掲示板で歓迎を受けたがどこで操作しているか。

【説明】 新幹線から降りた途端の歓迎の掲示板は市役所内で操作している。

○ 災害現場の後始末の進行が早いことや大火にもかかわらず市民が明るくふるまっているように感じられた。

古来火災が多い地域柄であるのか保障・保険加入者が多いことなど、備えが必要と強く感じた。

久慈市も市街地の火災の場合の備えをして置くことが重要と感じた。

特に市街地の住民には、今後の指導として、任意ではあるが補償保険への加入の促進をしていくべきと感じた。

委員会室のつくりについては、久慈市もしっかりした作りに改修をし、委員会の充実を図るべきであり今後の課題であると思う。

視察研修内容 (1) - ②

日 時	1. 平成29年2月9日(木) 午後3時～午後4時30
	2. 平成29年2月11日(土) 午前9時30分～午前11時30分
視 察 地	1. 新潟県糸魚川市役所
	2. フォッサマグナミュージアム
視察先住所	1. 新潟県糸魚川市一の宮1丁目2-5
	2. 新潟県糸魚川市一ノ宮1313
説 明 者	1. ・産業部交流観光課長 渡辺成剛 様 ・ジオパーク推進係長 山内俊洋 様
	2. 糸魚川ジオパーク観光ガイド 小野雅春 様
視 察 目 的	糸魚川ジオパークの事業概要と観光振興について

概要 (糸魚川ジオパークについて)



- 糸魚川駅の改札を出た正面には大きなモニターが設置され、ジオパークのまちのPRとともに、来訪者へ歓迎のメッセージが映し出されていた
操作は、市役所からできる

- 67ページにわたる資料は、有料

- 大火の概要に引続き渡辺課長よりジオパークについて説明



- フォッサマグナミュージアムの正面

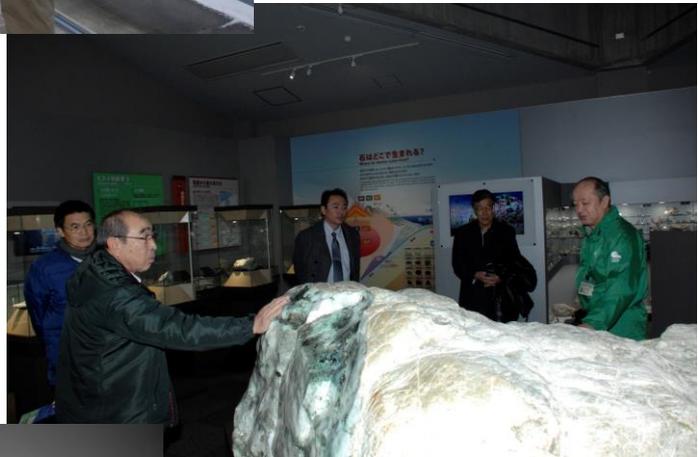


概要



- 館内展示施設内へのエントランス通路の外には、石で作られた日本列島や構造線が設置されているが、雪のため見られなかった

- 重さ4、6トンもある翡翠の原石に一同感心



- 施設内には、実験やクイズ形式、触れたり体験できる展示物が数多くありジオパークを体感できる工夫がされている



所感

- 糸魚川市における、地域の山・川の生態系、人の生活と自然の関わり、いわゆるジオ(地球)に親しみながら暮らしていくことの重要性について研修し、糸魚川ユネスコ世界ジオパークの見どころについて、種々説明を受けた。地球を大切にし、糸魚川市が関わる自然の恵み糸魚川市でなければ世界に発信できないものについてその素晴らしさを研修した。

ジオパーク学習を学校教育の指導要領の中に取り入れ、ジオパークの3要素、保護・教育研究・ジオツーリズムを掲げているという。

- 地球移動がもたらした自然の恵み、いわゆるヒスイや石、自然環境形成がもたらす地層から、その歴史が生んだ現実の姿をジオパークとして、ジオサイト化し、幼児期から児童生徒や一般人まで歴史の歩みを教育として、市民全体であらゆる場でその重要性に取り組んできている事にただただ感銘を受けた。

当市も三陸ジオパークの一員として、ジオサイトの位置づけをあらゆる角度から検証し、もっといろいろなものとの組み合わせをして、活用できる説得力のあるジオパークの実現を図ることが必要であり、新たに検討する必要性を考えさせられた。

また、幼児教育からジオパークに取り組んでいることに凄さを実感した。

視察研修内容 (1) - ③

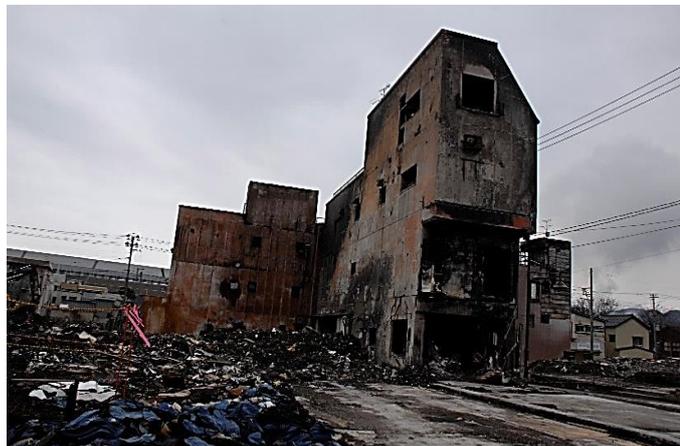
日 時	平成29年2月10日(金) 午前9時～午前10時
視 察 地	新潟県糸魚川市大規模火災地区
視察先住所	新潟県糸魚川市大町
説 明 者	なし
視 察 目 的	大規模火災時のボランティア活動について

概要



- 火災発生後2カ月半経過後の市街地中心部は、大きなガレキは撤去されたが、復旧には、まだ時間がかかる

- 鉄骨造りのため、形は残っているが、今後取り壊しを待つ被災家屋



- 銀行外壁などは修復され白く塗り替えられているが黒く焼け焦げた中央の地蔵横の標柱は、火災を思い起こさせる

所感

糸魚川大火においても、その被災状況の大きさから、翌日には「糸魚川市地域たすけあいボランティアセンター」としてボランティアセンターが立ち上げられ、直後より全国各地からのボランティアが駆け付け、思い出の品等を探す活動などが行われてきた。

平成28年度私ども「新政会」では、大規模災害に係る事項について研修を重ねてきたが、実際の災害ボランティアについても現地を訪れ全国のボランティアの方々と共にボランティアとして活動を行ってきた経緯があることから、糸魚川大火についても、大規模市街地火災であることを踏まえ、当市における市街地での大規模火災等を考慮した災害ボランティアを行う予定であった。

結果として、ボランティア活動はできなかったが、理由として、事前にボランティアセンターへの問い合わせや申し込みは行ったものの、「新政会」一行が糸魚川市を訪れたのは火災発生後2か月を経過した後であったため、細かな作業等人力でのボランティアの需要はなくなっていた。ボランティアの需要が当日でなければ確定しないとのことであり、糸魚川での災害ボランティアは断念することとなった。

予定していた、火災被災地でのボランティア活動は行うことができなかったが、火元周辺から終末の海岸沿いまで、事前に糸魚川市役所で研修させていただいた事項を踏まえながら、火災現場において大規模火災に至った要因等と照らし合わせながら現況を視察した。

震災地や水害地でのボランティア活動と火災地でのボランティア活動の違いとして、水害・地震等のボランティア活動でも行われてきてはいるが、個々人の心や記憶に残る思い出の品物を火災瓦礫の中から探し出す活動が主な活動だったようである。大規模ではあるが、中心市街地での限られた区域内の火災による焼失という特殊事情とうかがわれるが、重機等による残骸等の撤去作業が早い段階から集中したため、手作業によるボランティアは、水害や地震被災地での活動人員に比べ比較的少ないのではないかと感じられた。

災害ボランティアは、どのような災害においても必要性を認めるが、災害の種類や地域状況を踏まえながら、情報の収集によりボランティアニーズを明確にとらえて、被災住民の心情を考慮しながら活動しなければならないことを改めて感じさせられた。

視察研修内容 (2)

日 時	平成29年2月10日(金) 午後2時～午後4時
視 察 地	新潟県上越市議会
視察先住所	新潟県上越市木田 1-1-3
応 対	・上越市議会議長 内山米六 様 ・上越市議会事務局 調査係 主任 清水浩史 様
説 明 者	上越市議会 広報広聴特別委員会 委員長 杉田勝典 様
視 察 目 的	議会改革について

概要



- 上越市議会議長 内山米六様より歓迎のご挨拶をいただく

- お礼のあいさつを行う新政会会長・澤里富雄



- 議会改革について説明をいただいた、上越市杉田勝典議員

概要



- 質問を行う澤里富雄議員



- 質問を行う泉川博明議員

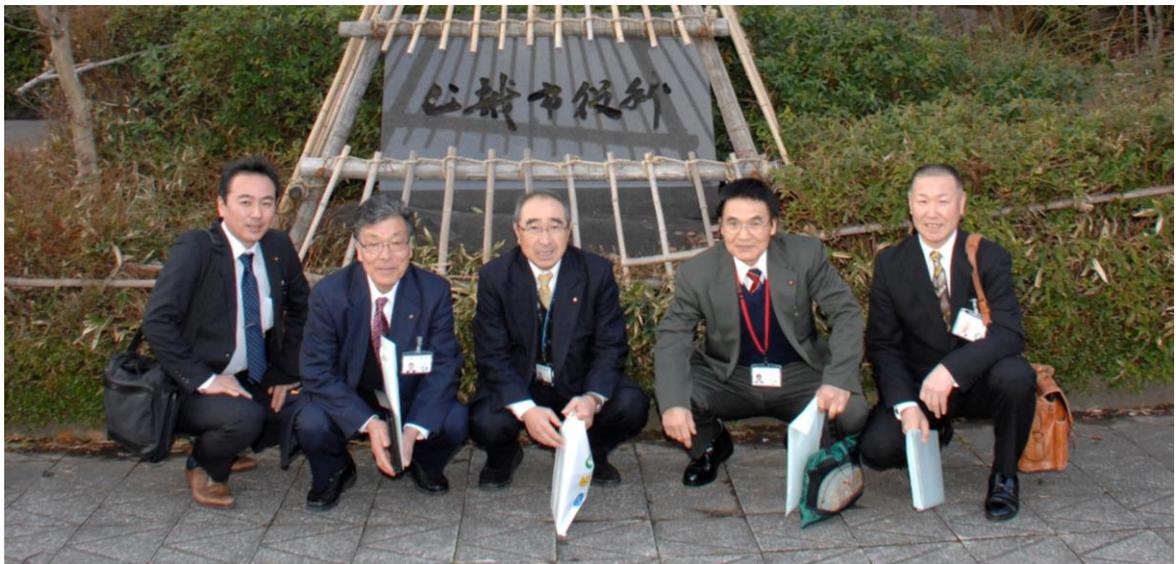


- 質問を行う山田光議員



- 質問を行う澤里富雄議員

- 上越市役所前にて



所感

- 平成の合併で1市13町村が合併してできた上越市へお伺いした。

議会活動状況について研修。議会改革の中で議員が知っていて、市民が知らないことがあってはならない事を念頭に、市民の信託にこたえていくことこそが議会改革であることを柱据え、市民との透明性を図りながらの改革に努めている。これが重要との認識で議員が行動している。

議会報告会は、できるだけ議会事務局の手を借りずに議員間での事務調整をし、統一的な見解で臨んでいる状況であること。陳情は陳情した関係者の委員会への出席を求めている。委員会の重要性を市民にアピールしながら議員間の意思確認をし、採択するか不採択にするかを慎重に審議している。

上越市でもタブレット委員会を29年度実施する予定である。

議員発議は積極的に提案してきている。

議員は自分を守る傾向に向かうが、本当の議員とは市民を向いた活動に撒していくような条例提案を心がけていくことが重要である。

- 議員、議会活動は誰のためにあるのか、誰れのためにするものか等考えた時、目指す目標をしっかりと、目指す姿が市民によく分かるような形を議員全体でよく議論し、議員が率先して行動を興し、市民の理解を得ないと議員の価値が薄れる時代と考えられるので、他市町村の議員も相当の覚悟と責任を持った議会改革をしている現状である。

従って、視察を実施したらその効果のあがる努力をし、常に前向きな考えを捨てない議会を目指すべきと感じられた。

このことから、当市の議員も会派を超えて議論をもっと積極的にする場の設定を考える必要がある。

まとめ

- 糸魚川市における中心市街地での大規模火災と糸魚川ジオパーク及び上越市議会の議会改革について視察を行うに当たり、「新政会」として数回にわたり会議を行い、各視察地の研修内容について資料を収集し研究を重ね、現在の久慈市に不足している事項や施策を検証して会派内の意見を統一して研修にあたった。
- 事前の会議では、糸魚川大規模火災については、市街地の立地条件等を本市と比較することにより、沿岸部にあることや乾燥時期の強風などの気象状況を重ね合わせ、本市における市街地での大規模火災を防ぐ手法や大規模延焼を封じる技術等を検討できるものと考えた。

本市においても糸魚川市同様、過去に市街地での大規模火災が発生した事例があり、一つの火災により数百件規模が焼失している。そのことから本市での市街地における大規模火災は、いつ発生してもおかしくない状況にある。特に、冬期間から春先にかけての乾燥時期は、当地方において山側から海側へ向けての強い西風が吹く気象条件となっており、風向こそ違いますが糸魚川市の大火から学ぶことは数多くあったものと思われる。

その一つは、強風下で火災の勢いが強まる中、どこの地点で火災を食い止められるかの判断を行う難しさがあるようだ。常備消防の装備や消防団等の消火活動を行える人員にもよるが、中心部の火災対応には当たりつつも、比較的道路幅を確保できる道を選びそこから外側への延焼を防ぐような放水策も取られたようである。

火災鎮火後の航空写真を見ると、火元から風下に向けて扇状に広がっているが、ここまでで延焼を食い止めた、と思わせるような火災跡であることから、前述のような延焼防止策が有効であったものと考えられる。

もう一つに、家屋の構造上の違いにより延焼しにくい構造があることも報告されていた。写真でも掲載しているが、周りの家屋や倉庫は、ほぼ全焼しているにもかかわらず、一軒だけがその形をとどめていることから、検証が行われたようであるが、強風時で火災が延焼する際の火炎の侵入口として軒下が挙げられたようだ。

軒の良し悪しについては様々あるが、延焼に係わった視点からすれば、軒下を燃えにくい素材で建築するとか、軒の無い構造とするなどが挙げられるようだが、こ

これらのことを密集市街地での建築基準などに反映させることも、大規模延焼防止の一つの方策と思われる。

当市でも考えられる市街地での大規模火災を想定した場合、風下への延焼をどこで食い止めるのか、判断を求められることが出てくることも考えられ、大規模火災への対応やそれを防ぐためのソフト事業等を市当局へ積極的に提案していかねばならないものと感じられた。

研修では、所感の欄でも述べているように、被災されなかった市民や火災にあった市民も含めて、努めて明るく振る舞われているようであるとの話がなされていたが、火災による死者が無かったことを不幸中の幸いとしている糸魚川市民の心情を思うとき、できる限り前を向いて復興を目指す力を表しているものと感じられた。

- また、大規模災害時のボランティア活動に関して、糸魚川市では、ボランティアの需要が無かったため活動できなかったが、被災現地を直に視察することによるニーズの把握や、現地での被災住民の直接の声を聴くことによるボランティア需要の多様性等は、今後当市で発生した際の大規模災害時のボランティアセンター運営が有効に機能するための一助とできるよう提案していきたい。

- 同じ糸魚川市においては、ジオパークの先駆けでもあり、日本で初めての世界ジオパークに認定されている「糸魚川ジオパーク」がある。当市のジオサイトも多数含まれている「三陸ジオパーク」が、いわて三陸ジオパーク推進協議会の主導により、今後、世界ジオパークに向けて認定を目指すとされていることから、糸魚川ジオパークを研修することにより、日本ジオパークから世界ジオパークへとステップアップすることの難しさと運営手法を理解し、当市として世界ジオパーク認定に向けての役割等が見えてきた。

糸魚川市は、日本の東西文化の狭間に位置していることから、電源の周波数（50Hzと60Hz）が混在したり、NTTやJRの境目ともなっている。そこにあるのが、糸魚川ジオパークの元にもなる、糸魚川－静岡構造線の存在であるが、もう一つの柏崎－千葉構造線との内側にあるフォッサマグナ（大きな溝）が糸魚川ジオパークの大きな特徴でもあり、これらのことを内外にどのように発信するか、保

護と活用のバランスをうまくとることにより観光としての交流人口の増加に繋がっているようである。

また、ジオパークとして存続していくためには、4年に一度の再審査があることから、管理運営が重要になってくることのことであり、地域づくりや街づくりとして住民一人ひとりまでジオパークが浸透していなければ持続できず、幼児から児童・生徒・一般まで幅広いジオパーク教育を進めることにより世界ジオパークを維持していることは、当市が目指すジオパークにも当てはめることができ、重要な要素として取り入れなければならない。

ジオパークは、2015年ユネスコの正式なプログラムへ昇格したが、世界遺産とは違い保護のみではなく、活用することで経済効果を生み出すことが重要であり、ビジターセンターなどのメイン施設の設置が必要であることから、当市の地下水族科学館をビジターセンターとして発展させることが一つの方策と考えられる。

さらに、世界ジオパークとして存続するための要素として、各ジオサイトを案内できるボランティアガイドの存在が重要である。当市にもボランティアガイドは存在するが、ガイドを行う各種団体の連絡調整等の連携が進んでおらず、観光客に不便をかけていたと感じていたが、遅ればせながら当市でも「ガイドの会」が発足しボランティアガイドの養成と質の向上へ向けて期待したいものである。

- 上越市議会では、当市議会でも現在も進めている議会改革について学ぶため、「議員発議について」「議会だよりの紙面作りについて」「委員会のインターネット中継について」の三点に絞り研修を行うこととした。

上越市議会は、早稲田大学マニフェスト研究所による議会改革度調査ランキングにおいて、近年では常に上位に位置している議会であり、昨年発表されたランキングにおいても、総合で4位にランキングされている議会であることから、議会改革が一步先を進んでいる議会として研修を行うことにより、全ての面で直ちに同様の改革を行うことが出来るわけではないが、問題点の抽出の方法や議員個々の議会改革への意識の持ち方等、久慈市議会で行ったための参考とすべき事項を見つける研修とした。

議員発議については、平成22年の「議会基本条例」制定後、「中山間地域振興条

例」・「地酒で乾杯を推進する条例」・「空き家等の適正管理及び活用促進に関する条例」の他議会基本条例と自治基本条例の一部改正を行っている。

中山間地域振興条例では、合併後の旧町村が疲弊していくのではないかとの思いから生み出されたとのことで、当市でも山形地域や山根地域における振興を考えていかなければならず、喫緊の課題と捉えなければならない。

乾杯条例は当市でも制定したが、上越市の場合は、12の蔵元があることから地酒での乾杯条例となっているが、地元の酒造組合や飲食店組合が中心となり、PRグッズの作成やイベントの開催等民間からの勢いも生まれているようで、当市でも民間団体の集まりや少人数の飲食の機会でも地酒等による乾杯がさらに普及するよう広報する必要があると感じられる。

また、空き家条例に関しては、総務常任委員会が所管していたようであるが、さらに議論を深めることが必要と考えられ、政策形成会議を設置し検討を重ねたようである。当議会でも広聴広報により集められた意見を課題調整して、政策提言に繋げる過程が徐々にではあるが構築されてくるものと期待されるが、会派としてもさらに研修を積み重ね議員発議が出来る環境を構築するため努力する必要がある。

委員会の中継では、他の議会でも利用している、ユーストリームを平成25年から活用しており、アクセス件数は年間一万から一万五千件程であった。コスト的には、当初、設備や設定に百万円弱計上し、年間九万円程度の回線使用料等が掛かるが、当議会でも計上できない予算ではないと思われるので、一日に一つの委員会を開催することとすれば、全委員会を中継できるので、当議会でもユーストリーム等を活用したインターネット中継を推進するよう提言していきたい。

- 視察後の検討会議においての、久慈市議会「新政会」としての考察として、大規模災害の検証と災害時のボランティア活動について一年間、実際の被災現地でのボランティア活動を行いながら研修を重ねたことにより、大規模災害時のボランティア活動の在り方や、災害地域での人的重要性などを改めて認識するとともに、今後当市において発生が懸念されている、大地震による大津波や昨年8月の中心市街地での大規模洪水等に匹敵するような大災害への対応策や備えについて多くを学ぶことができたものと感じており、災害に強い久慈市の街づくりの一助としたい。